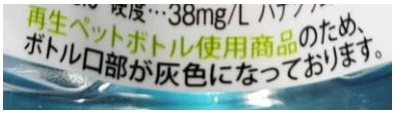
「慶應の水」再生ペットボトル使用にともなう
ラベルデザインのリニューアル

慶應義塾主催のイベントや三田会での卓上水等でおなじみの「慶應の水」のラベルデザインをリニューアルいたします。近年の環境問題を鑑み、再生ペットボトルを2022年11月より導入していましたが、ラベルデザインもリニューアルし、2023年３月１日より、三田インフォメーションプラザ慶應義塾公式グッズショップ（https://www.keiogoods.jp/）において、取扱いを開始します。



「慶應の水」は、2007年に締結された慶應義塾大学と山梨県及び富士吉田市との連携協定に基づき、故鹿園直建名誉教授（元理工学部教授）による富士吉田市の地下水の水質や年代等に関する調査研究の成果や、玉村雅敏（総合政策学部教授）研究室が行った地域資源を活かした地域活性化の調査研究の成果をもとに、塾生たちから富士山麓の水を通じた人々の絆と文化を育む方策の１つとして提案され、2013年８月に誕生しました。

製造生産は、1929年創業の日本で最初にミネラルウォーターを製造販売した富士ミネラルウォーター株式会社が行い、標高約2,000ｍから富士山の玄武岩層を通って約30年の時を経て磨かれた天然の伏流水は、サミット等公賓を招く席や一流ホテル・料亭などに多数採用されるなど信頼性も高く、常温でもおいしく飲める、弱アルカリ性・軟水タイプのナチュラルミネラルウォーターです。

売上の一部は慶應義塾の奨学金に還元されています。さらに、製造企業も売上を通じて富士山の環境保全や地域の活性化を支援するため、一般財団法人ふじよしだ定住促進センターに寄与することとしています。塾生の企画により設立された、コミュニティファンド（富士吉田みんなの貯金箱財団）を前身とするこの財団は、人口減少の時代の中でも移住や仲間が増えていくようなまちづくりに取り組み、慶應義塾大学の研究室と富士吉田市とのプロジェクト活動にも協働しています。

ラベルの裏面には、奨学金への還元と地域の活性化や環境保全について、この水に込められた意義が記されています。塾生が企画した「慶應の水」が誕生して10年、環境に配慮し、さらなる社会貢献の取り組みが進められています。

＊各キャンパスの自動販売機で販売している「慶應の水」のラベルは、旧ラベルで販売をしていますが、順次、新ラベルに切り替えを行ってまいります。